

◎平成29年度業務委託 料金徴収員基本配置人員算定基準

【算出式】

- ① ブース内総労働必要時間の算出  
基本レーン [基本人員×営業時間×営業日数] + 繁忙時レーン開放時間……A
- ② 営業開始・終了に伴う必要労働時間の算出  
[基本人員×(営業開始必要時間+営業終了必要時間)×営業日数] ……B
- ③ 総労働必要時間の算出  
A+B=C
- ④ 総必要人工数の算出日数  
C÷1人当たり勤務時間/日……D
- ⑤ 必要人員数の算出  
D÷1人当たり年間勤務日数

【算出内訳】

- ① 基本人員 2名 (各方向別の車両から徴収が可能な最低基本人員)  
ただし箱根スカイラインは、平日の平均通行台数が280台/日以下の月の平日に限り、1名 (両方向の車両から徴収)
- ② 繁忙時レーン開放時間の算出
  - (1) 平成28年9月1日～平成29年8月31日間の時間別方向別交通量から曜日別 (平日・土曜・日祝日別) の時間別方向別台数を算出する。
  - (2) 上記 (1) の時間別方向別台数を各曜日別日数で除すことで、平均時間別方向別台数を算出する。
  - (3) 上記 (2) の平均時間別方向別台数にて、繁忙時に基本レーンでは対応できないため予備レーンの開放を必要とする時間数を求める。  
この基準となる台数は日本道路公団設計要領「車線数、サービス時間及び平均待台数と処理可能台数」におけるピーク時台数を使用する。

道路別	伊豆中央道 修善寺道路	伊豆スカイライン		その他
		進入	退出	
サービス・タイム	8秒	18秒	10秒	8秒
1レーン当たり ピーク時台数	230台*1	100台*1	270台*2	340台*2

注) \*1については平均待台数が1台の場合の台数を使用した。  
注) \*2については平均待台数が3台の場合の台数を使用した。

- (4) 平成30～32年度を曜日別に分類し、この日数に上記 (3) で求めた時間数を乗ずることで、繁忙時レーン開放時間を算出する。
- ③ 1人当たりブース勤務時間
  - (1) 料金徴収員は、1勤務8時間45分の拘束時間のうち、45分の休憩時間を除いた8時間ブースにて徴収を行うものとして算定。
- ④ 営業開始及び終了必要時間  
営業開始時及び終了時に伴い、その準備 (つり銭の準備・運搬、收受機・通行券のセット等) に各15分、計30分必要であるものとして算定。  
(ただし、東芝テック製のPOS型收受機を使用している道路は、営業終了時のデータ送信に追加が必要となる15分を加算する。)

⑤ 年間勤務日数

年度	年間日数	年間休日日数			年間 勤務日数	公休日	30年度	31年度	32年度
		公休日	年休等	計					
30年度	365	109	10	119	246	土曜日	52日	52日	52日
31年度	366	109	10	119	247	日曜日	53日	52日	52日
32年度	365	108	10	118	247	12/29～ 1/3の平日	4日	5日	4日